



# 秋の結婚式

イリヤー プーシキン

# 秋の結婚式

イリヤー プーシキン





## ある日・・・

そのことについて考えていないけど、  
でもある日君のメールは届かない。  
ある日メールボックスで君の愛の便りを見つけない。

俺の夢は君と一緒に  
夜明けの前の霧になくなった。  
冬の寒い朝の霧に君を見つけない。

そのことを予知するのができないけど、  
でもある日この寒い世界で一人になるはず。  
ゆっくり孤独の苦い飲み物を飲む・・・



## お酒を飲むのが好きなメル友の女へ

よっぱらった君のメールを読むとき、  
興奮と情欲から酔っている。  
素面の君のメールを読むとき、  
君の逆説的考えに感心してよっぱらっている。

私たちの文通はずっと酒盛りみたい。  
私は少しずつ底抜け上戸になる・・・

## インターネットの文通相手の現実

日本の幽霊は足がなかったが、  
インターネットの男性の幽霊は男の印がない。  
私は幽霊じゃない、  
でも君は私たちの赤ちゃんの泣き声を聞くときだけ、  
私の存在の現実を信じるかもしれない。

## 人妻のこと

日本のねずみいろの空は  
小雨で泣いている。  
俺の顔で  
雨の滴は涙の滴と混じっている。

日本は俺にとって愛する人妻みたい。  
近寄り難く美しい日本は一度も俺の妻にならない。

もう一人の愛する人妻がいる。  
君にも涙を落とす。  
夢でだけ君の目にキスする。  
夢でだけ私たちの体は絡み合う。

どうして君と出会った？  
どうして君を恋した？  
どうしていつまでも  
人妻だけ愛さなければならない？  
どうしていつまでも  
近寄り難い日本だけを熱望しなければならない。



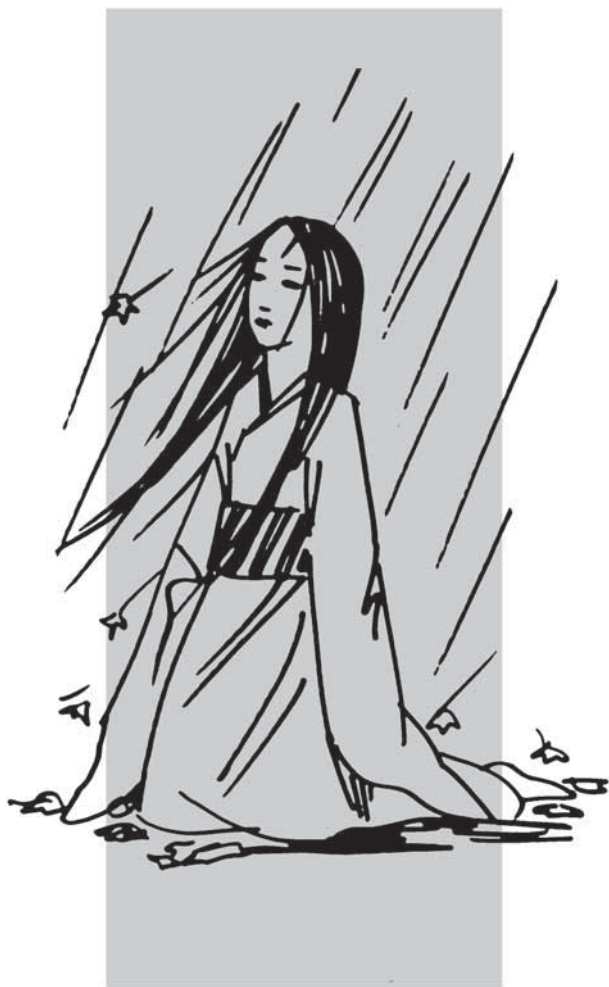


## 疲れた医者に書かれた詩

毎朝目覚める前から、私は働き始める。  
私の朝の夢は  
現実の患者の悲鳴でいっぱい。  
まだ寝ている私の患者たちは  
生き残るために戦っている。

毎晩寝床に入る前に、すでに私は眠り始める。  
私の晩の夢は  
怒る女の叫びと  
平手打ちでいっぱい。

私の暮らしの中で  
現実と夢はごちゃごちゃ。  
この混沌の中に  
あなたのやさしさだけが現実。





## 君の微笑みの虜

心がすごく優しさを渴望して  
愛情を期待したら、  
初めて出会った俺に微笑む女は、  
俺のすべてを奪っていく。

夢のなかで愛する君は  
初めて出会った俺に微笑む女に  
なってください。  
いつまでも君の微笑みの虜になりたい。

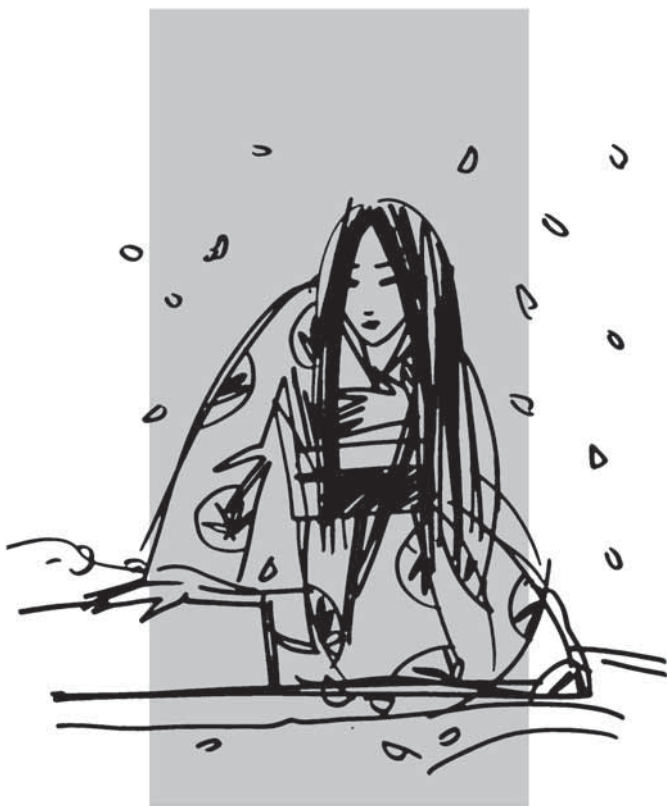
## 私の画家へ

あなたは私の詩のために絵を描いて、  
私はあなたの絵を見て、詩を書いている。  
これは呼吸のようだ。

## 死亡と「さようなら」の後で

空に煙が上がる時、  
死亡のあとでだけ実の生活がある  
とわかり始めている。

ある朝に毛布の下で君を見つけないとき、  
「さようなら」の後でだけ実の愛情がある  
とわかり始めている。





## 私たちのおとぎ話

時々幸せを見逃がさないために、  
実際の障害に気づかないほうがいい。  
多分私たちのおとぎ話は  
ひとつの現実かもしれない。

俺のために君は  
やさしさや美しさを保ったら、  
君のために俺は  
ここを保つ。

このおとぎ話の中で  
私たちは幸福になる。  
このおとぎ話は  
私たちの生活かもしれない。





## 秋の泥棒

誰かが俺のメールボックスから  
君の優しいメールを盗んだ。  
誰かは君のメールから  
全部暖かい言葉を盗んだ。

秋の風という意地悪い泥棒は  
俺の恋人を  
連れ去ったかもしれない。  
秋の森の魅力という愛人は  
君を誘惑したかもしれない。

秋の雨の悲しさは君に俺を  
忘れさせたかもしれない。

## 夫婦茶碗のこと

私たちの夫婦茶碗が  
粉々に砕けたとき、  
涙の飛沫は飛び散った。

もう長い間これは  
私たちの涙でいっぱいになっていた・・・

## 永久の愛のうたかた

このうたかたは消えてなくなる、  
このうたかたは私たちの愛。  
いつまでもあるうたかたで  
俺の心臓はどきどきしている。  
私たちの感情のうたかたは  
いつまでもある。  
私たちの幸せのうたかたは  
いつまでも残る。



## 秋の結婚式

私たちの結婚式では  
誰も酔ってダンスをしない。  
私たちの結婚式で  
挨拶の言葉や子供たちの笑い声は聞こえない。  
秋の静かな悲しさは私たちに  
紅葉の一抱えを贈ってくれるだけ・・・

私たちの結婚式の日、  
きっと、秋の空は声を出して泣いている。





## 落ちたこと

年中ずっと何かは落ちている：  
秋に紅葉が落ちる、  
冬に雪が落ちる、  
春に花弁が落ちる、  
夏に私がひどい暑さで落ちる・・・

## ゴミの詩。

孤独の寂しさを  
燃えないゴミに捨てたけど、  
失恋で壊れた心は  
燃えるゴミに捨てたほうがいい。

ゴミを掘り返せば、  
燃えないゴミの中に誰かの寂しさや  
燃えるゴミの中に誰かの壊れた心を見つ  
けることができる・・・





校正：藤田理世

市川みどり

挿絵：マーシャ トウカチェンコ

装丁：シモーナ ヴェイスベルグ

2009 © Jerusalem, Ilya Pushkin